

鹿児島盲学校における移動博物館の取組の工夫

金本 直子^{*1}・住吉 啓三^{*1}

Innovations in the Mobile Museum at Kagoshima School for the Blind

KANAMOTO Naoko^{*1} and SUMIYOSHI Keizo^{*1}

Abstract: The museum is running a mobile museum project from 2020 to 2024. This mobile museum project involves setting up a mobile museum once a year in one city or town on an isolated island and one special needs school on the prefecture's mainland. The aim is to allow people who live in remote areas and have difficulty visiting the main museum, or those who have physical difficulties, to view the museum's collection, and to increase interest in the nature of Kagoshima among the prefecture's residents.

When implementing the project at the Kagoshima School for the Blind this year, various efforts were made to satisfy the intellectual curiosity of blind and partially sighted people and to make the project a satisfying one. As a result, it seems that the goal was largely achieved. The efforts also allowed people without visual impairments to experience nature and learn a lot. We will continue to flexibly review the content to suit the target area and children and students, and aim to create a mobile museum where everyone can learn in a fun way.

はじめに

博物館の活動には、資料の収集・保管、展示、調査研究、教育普及の4つの柱がある。その中の教育普及活動として、本博物館では、学ぼう郷土の自然移動博物館事業を令和2年度から令和6年度で実施している。この移動博物館事業とは、年度ごとに、離島の市町村と県本土の特別支援学校の各1か所で移動博物館を実施する事業である。遠隔地に居住しているため本館への来館が困難な方々や、身体的な都合により来館が困難な方々に、当館の収蔵資料を見ていただき、県民の鹿児島の自然に対する興味関心を高めることをねらいとしている。

今年度は、奄美大島の大和村と鹿児島盲学校で実施した。毎年、実施場所が異なるため、その地域や児童生徒の実情に合わせて内容の見直しを行ないながら実施し、来場された方々から好評を得ている事業である。

今年度実施した盲学校は、全盲や弱視など視覚に障害をもつ児童生徒が在籍しており、これまで実施してきた視覚に頼った展示内容では実施が難しいことが予想された。そこで、今回盲学校の児童生徒たちの知的好奇心を満たし、満足感のある事業にするためにさまざまな工夫を行なった。

この報告書では、鹿児島盲学校の移動博物館での実

践について報告し、障害の有無に関わらず誰もが楽しく学べる移動博物館の在り方について考えていきたい。

1 令和5年度と令和6年度実施分との比較

令和6年度の鹿児島盲学校での移動博物館の実施状況をより分かりやすくするために、令和5年度実施の鹿児島串木野特別支援学校での移動博物館の内容を比較する。

(1) 目的

自然・環境保護が世界的な課題となっている中、郷土の自然を見つめ、科学する心を育み、自然と共生する心を培うため、鹿児島の自然や地域の自然、鹿児島の生物多様性等を紹介する展示活動や工作実験などを通して体験活動を実施することとしている。あわせて、今回は視覚に障害のある盲学校の児童生徒たちの知的好奇心を満たし、満足感のある事業にすることも目的とした。

(2) 内容

令和6年度の展示数は、令和5年度に比べ約半分に減少しているが、直接触れたり、体験したりできるコーナーを特設した。(表1)

*1 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島市城山町1-1

表 1 令和 5 年度と令和 6 年度の内容比較

令和 5 年度の内容	令和 6 年度の内容
世界と鹿児島県の昆虫標本	世界と鹿児島県の昆虫標本
身近な動物の剥製	身近な動物の剥製
鹿児島県の天然記念物	—
触れる化石や鉱物	触れる化石や鉱物
—	触れる動物の剥製
—	触れる昆虫の大型模型
—	触れる植物のたね
—	植物の花のにおい体験コーナー
—	鳥や秋の虫のこえの聴音体験
—	触れるオブジェ
—	触れる理科室 (盲学校職員が企画運営)
生き物に触れるコーナー	生き物に触れるコーナー
楽しい工作「ストーンペインティング」	—
楽しい実験「液体窒素の実験」	楽しい実験「液体窒素の実験」
—	楽しい実験「スライム作り」
展示点数 約 1,750 点	展示点数 約 900 点

2 内容の工夫

盲学校での移動博物館の内容を検討する際に、以下の 3 点を参考にした。

1 点目は、盲学校の移動博物館の担当職員との打合せで挙げられた要望である。

- ・見るだけでなく、触ったり、においを嗅ぐなどの体験ができる展示物を多く出してほしい。
- ・弱視の児童生徒も多く在籍してるので、展示物は大きく、色彩が鮮やかなものが好ましい。
- ・実験コーナーを増やし、体験活動を多くさせたい。

2 点目は、令和 5 年度に盲学校の児童生徒が遠足で本館を訪れた際の様子である。

- ・観覧時間のほとんどを、展示物に触れたり、鳥の鳴き声を聴いたりすることができるディスカバリールームという展示スペースで過ごす様子が見られた。
- ・今まで名前しか知らなかった生き物に触れ、その手触りに驚く児童生徒が多かった。

3 点目は、令和 6 年 6 月実施の視覚障害者協会の研修視察に参加された方から頂いた感想や要望である。

- ・視覚が不自由な人たちにとって、視覚以外で展示物を鑑賞できるディスカバリールームの存在は大変有意義である。
- ・触れる展示物をさらに増やし、より一層誰もが楽しめる博物館になってほしい。

以上のことを参考にし、以下の 3 つの柱で展示内容を検討し、工夫を行なった。

(1) 展示物は大きく、色彩が鮮やかなものを選択

世界と鹿児島県の昆虫標本で展示する標本は、大きく色



図 1 昆虫標本の展示



図 2 触覚を使う動物分野の展示

彩が鮮やかなものを中心に選択し展示した。(図 1)

(2) 視覚以外を使って鑑賞する展示物の特設

・触覚を使用する展示物

これまで地質分野の化石や鉱物は、触ることができる展示物として展示してきた。しかし、植物、昆虫、動物分野については触ることができる展示物が無かったため、当館のディスカバリールームの展示物を参考にし特設した。植物分野では、ドングリやオオオナモミなどに触れ、大きさや形状の違いを体験できるようにした。

昆虫分野では、カブトムシやバッタなどの大型の昆虫模型を展示し、脚の数や形状を確認できるようにした。

動物分野では、アオウミガメやアオダイショウなどの剥製を展示し、体表面の違いや大きさを体感できるようにした。(図 2)

また、これまでの移動博物館では見るだけであったオブジェも触ることができるようにした。今回展示したオブジェは、アフリカマイマイとドングリのオブジェである。当館の職員が手作りした巨大模型で、形状や質感を体感できるようにしたものである。(図 3)

・嗅覚を使う展示物

カモミールやバラの花のにおいを嗅げるようにし、

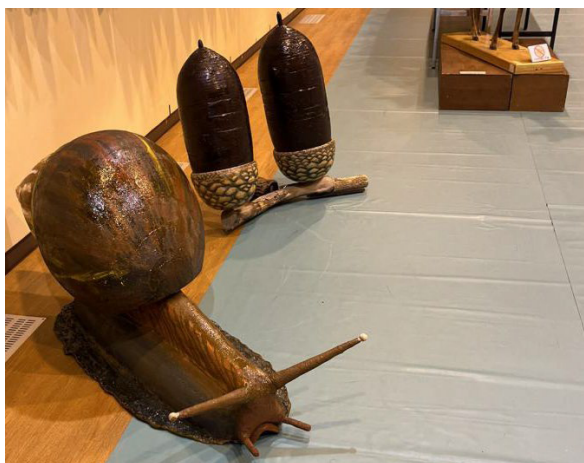


図3 触れるオブジェの展示

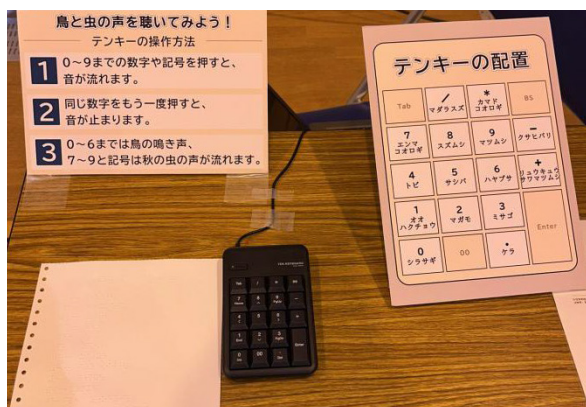


図4 鳥と虫の声を聴くことができる展示



図5 液体窒素の実験でバラの花を凍らせている様子



図6 スライムを作る実験の様子

植物による香りの違いや芳しい香りを体験できるようにした。

・聴覚を使う展示物

鳥や秋の虫のこえをパソコンを操作して聴くことができる装置を作製し、聴覚を使って自然を感じられるようにした。(図4)

(3) 体験活動の充実

今回、楽しい実験「液体窒素の実験」をさらに充実させるために、演示で示していた内容を児童生徒に体験させる内容に変更した。具体的には、これまで当館職員がバラの花を液体窒素に入れて凍らせ、その凍らせた花を手で握り、粉々に碎ける様子を見せていたが、盲学校の児童生徒全員が自分でバラを凍らせ、さらに手で握って粉々に碎くという体験に変更した。(図5)

また、楽しい実験のコーナーを1つ増やした。「スライム作り」を採用した理由は、材料を割りばしで混ぜる行程で、混ぜるために必要な力が変化するため、液体だった物質がゲル状に変化したことを実感することができる点である。また、出来上がったスライムを手で触り、ゲル状物質の感触を児童生徒自身が確かめることができる点である。(図6)

マダガスカルゴキブリやヘビと触れ合うコーナーは生



図7 児童生徒とヘビが触れあう様子

き物の動く様子や体温や表面の感触を体験できるため、今年度も継続して実施した。特に今回は、からだが大い個体を選び、体感しやすいようにした。(図7)

3 実際の様子

(1) 入場者数

1日間の開催で、131名の入場者があった。児童生徒はもちろんのこと、学校職員や関係者の入場や、一日に数回来場される方もいた。

(2) 観覧の様子

展示物については、触ることができない展示物より

も視覚以外を利用して鑑賞する展示物の方に人が集まる傾向が見られた。また、弱視の児童生徒のなかには、触ることができない展示物に近づき、じっくりと観察する様子も見られた。(図8)

液体窒素の実験では、液体窒素で凍ったバラの花の感触や液体窒素が気化してフィルムケースが大きな音を立て蓋が飛ぶ様子に感嘆の声が聞かれた。

スライム作りの実験では、スライムをお店で買ったことしかない児童生徒や触ったことのない児童生徒が出来上がったスライムの感触を楽しむ様子が見られた。

そして、生き物に触れるコーナーは、例年同様興味をもつ児童生徒が多かった。アオダイショウに興味はあるが触ることに躊躇する児童生徒のなかには、アオダイショウの剥製を触り、その感触に慣れた後に生体に触れる児童生徒もいた。



図8 展示物を観覧する様子

(3) アンケートから

アンケート結果は、次のとおりである。

小学生のアンケート結果

展示内容の満足度	とても満足 (100%)
楽しい実験の満足度	とても満足 (100%)
自由記述	・スライム作りで洗濯のりを入れる理由が分かってよかった。 ・蓋がとんだことにびっくりしました。 ・ヘビの触り心地がとても良かった。ヘビには毛があると思っていたけど無かったのでびっくりした。思っていたより怖くありませんでした。 ・バラがわれる音が好きでした。

中学生のアンケート結果

展示内容の満足度	とても満足 (80%)		満足(20%)
楽しい実験の満足度	とても満足 (60%)	満足(20%)	普通(20%)
自由記述	・生きているへびやゴキブリを見たり触ったりしたことが印象的だった。 ・水晶などの珍しいものが見られて良かった。 ・液体窒素にバラを入れると、バラバラになったことが面白かった。 ・スライムを初めてつくったので楽しかった。		

高校生のアンケート結果

展示内容の満足度	とても満足 (100%)	
楽しい実験の満足度	とても満足 (33%)	普通(67%)
自由記述	・手で触ったり、匂いをかいだりもっと見ていたかったです。 ・化石や模型などをじっくり見ることができた良かった。 ・オオヤマネコがとてもかわいかった。	

アンケート結果から、小学生から高校生まで視覚以外を使って鑑賞する展示物に対して特に大きな満足感を感じていることがわかった。楽しい実験については、中高生にとっては平易な内容だったことが満足度の低下につながった可能性がある。しかし、やや不満や不満と回答した児童生徒は一人もいなかったことからある一定の満足感をもつことはできたと考えられる。

(4) 盲学校職員の感想から

- ・児童生徒はもちろん職員も楽しめる内容で、もっとゆっくり見学したかった。
- ・社会との関わりをもつ機会が少ないこともある児童生徒にとって貴重な経験であった。
- ・点字での表記が一部しかなかったので、次回の盲学校での移動博物館では、点字や拡大文字での解説をさらに増やしても良いのではないかと。

との感想や要望をいただいた。

4 まとめ

今回の移動博物館においては、全盲や弱視の児童・生徒の好奇心を満たし、満足感のある移動博物館にするという目的を達成するために、さまざまな工夫を行った。当日の児童・生徒の表情や感想、さらにアンケートの結果から、その目的は概ね達成できたと思っている。対象となる児童・生徒の現状や特性を知り、それに合わせ、展示内容等を柔軟に見直したり、工夫したりすることを今後の取組でも大切にしていかなければならないと感じた。

また、今回の移動博物館で好評だった展示の工夫を、当館のディスカバリールームの展示物にも生かすことで、来館者にとってより充実した展示となることが期待できる。

さらに、視覚に障害をもつ方のための工夫は、視覚に障害をもたない方にとっても、体験的に楽しく自然を学ぶことができる機会となることが分かった。さまざまな工夫をし続け、障害の有無に関わらず、だれもが楽しく学べる移動博物館そして、博物館をこれからも目指していきたい。